

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

学校名		多久市立東原庫舎西溪校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標達成のために掲げた重点取組については、全体的に目標を達成することができた。次年度は、校内研究でもある学力向上に特に力を入れていきたい。 前年度は、コミュニティスクールとして学校・家庭・地域の連携を深化した。今年度は、児童生徒を主体とした教育活動(学習指導、生活指導、キャリア教育等)を更に推進していきたい。 「教職員の働き方改革の推進」については、その要因を分析し、全体で共通理解を図ることで、前年度よりも達成率が少しでも上がるよう改善向上に取り組んでいきたい。 「児童生徒の望ましい生活習慣の形成」のために、児童生徒会の自主的な活動を推進し、自発的・主体的に成長していく過程を支援する生徒指導を推進していきたい。 目標達成のためには、教職員だけでなく保護者や学校関係者にも自分事として課題をとらえてもらいたい。そのためにも、分かりやすい表現で取組内容や指標を保護者や学校関係者に示し、客観的評価ができるような具体的評価指標を立てる必要がある。 			
2 学校教育目標	「ふるさとに学び、志をもち、共に高め合う西溪っ子」の育成			
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①校内研究を柱とした学力向上。 ②児童生徒会の主体的な活動の推進。 ③SCや外部機関と連携した教育相談の充実。 ④特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の充実。 ⑤学校・家庭・地域と連携した各種活動の推進。 			
4 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目				
	重点取組		具体的取組	主な担当者
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○「あくしゅタイム」(ねらいに迫る交流の場)で、考えを広げたり深めたりすることができたと回答した児童生徒90%以上 ○授業において、根拠をもって自分の考えを表現することができたと回答した児童生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教師が明確な意図をもって「あくしゅタイム」を設定し、その目的と評価を児童生徒に明示することで、「あくしゅタイム」の意義を児童生徒が感じ、意欲をもって実践していくようにする。 ・全教師が、根拠をもとに自分の考えをもつ場を設定した授業づくりの工夫を行うことで、児童生徒が自ら考え学ぶことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究主任 学力向上コーディネーター 全職員
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい道徳参観での感想や学校評価アンケートで「学校は豊かな心の教育に積極的に取り組んでいる」と回答した保護者が90%以上。地域家庭と連携した道徳教育に取り組んでいると回答した教員は85%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育に全ての教育活動を通して取り組む。特に、道徳科の授業において、子どもが元気に笑顔で学び合える学校を目指し、豊かな情操と道徳心を培う。 ・家庭、地域と連携して道徳教育に取り組む。 ・県教委制作の人権教育DVD「ジンちゃんケンちゃん」を活用した授業に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳推進教員 人権・同和教育担当
	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止等について、組織的対応ができていると回答した教員が100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回生活調査(あくしゅ)アンケートと年2回の教育相談(3年以上)を行い、いじめの早期発見に取り組む。 ・生活支援員の計画的な配置や昼休みの見守り体制を充実させる。 ・生徒指導協議会において、全職員で共通理解を図り、開発的・予防的な生徒指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導担当
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒95%以上 ◎「『なりたい自分』のイメージや目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会や文化発表会をはじめとする行事や各学年で行う体験活動を通して、児童生徒の自主性、自発性を育てていく。 ・1年間の成長を大切にするために、1年後のなりたい自分を見据え、学期の節目を活用し、学期毎のめあてを明確にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動部
	<ul style="list-style-type: none"> ●「望ましい生活習慣の形成」 	<ul style="list-style-type: none"> ●元気のよい挨拶ができていると回答した児童生徒80%以上 ●早寝・早起き・朝ごはんの望ましい生活習慣ができていると回答した児童生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・西溪会(児童生徒会)の活動や教育活動全体において、相手を意識した主体的挨拶を推進する。 ・学級活動や保健だより、給食だよりを発行し、児童生徒及び家庭への啓発活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 執行部担当 食育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○安全に関する資質・能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒や教員の交通事故、生活事故の発生件数0(ゼロ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団登校を学期初めに行い、その実施における登下校の安全確認に取り組む。 ・交通安全教室(1~3年:徒歩、4~9年:自転車)の実施により、歩行、自転車の扱いなどへの注意喚起を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導担当
	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限45時間以内を守ることができた職員90%以上 ●ライフワークバランスを意識した働き方ができたと回答する教員が90%以上 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス会議の継続、推進。 ・会議の開始時刻、終了時刻の徹底(会議時間60分)。 ・業務に見通しを持つための開錠、施錠時刻の設定と徹底。 ・定時退勤日の徹底(水曜日)。 ・電話対応時間の設定(朝:7:30から、夕:18:00迄)。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職 (副校長、教頭)
●特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の資質向上と支援体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答する教員95%以上 ○組織的・機能的な研修会を年間3回以上、ケース会議や支援会議を適宜実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内特別支援教育ミニ研修会を学期に1回、講師招聘の研修会を1回実施する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に必要に応じてケース会議を実施し、校内支援体制の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
	重点取組		具体的取組	主な担当者
○ICT教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した児童生徒主体の授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○「4月から12月までに、授業の中でタブレットをどのくらい使いましたか」で1週間に3、4回、ほぼ毎日と回答する児童生徒が80%以上。 ○「子どもたちが自らの判断で自由に端末を活用できる環境を提供している」と回答する職員が70%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用した授業実践 ・デジタル教材を活用した個別最適な学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 教育情報化推進リーダー
○コミュニティスクールの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・家庭・地域と連携した各種活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業などで家族や地域の人と一緒に学ぶ活動が行われていると回答した児童が90%以上 ○家庭・地域と連携した教育活動が行われていると回答した職員が100%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・多久学を中心に「恕の心、ふるさと多久を愛する心」を育むための授業や活動を、全クラスで計画的に単元を仕組んで実践する。 ・児童生徒が地域の人とのつながりを実感し、感謝の心をもつことができるように、地域の人や保護者に学習支援ボランティアや外部講師を依頼するなど、連携した活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 義務教育学校教育 コーディネーター 学校運営協議会担当 (副校長)
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育				
5 総合評価・次年度への展望				